

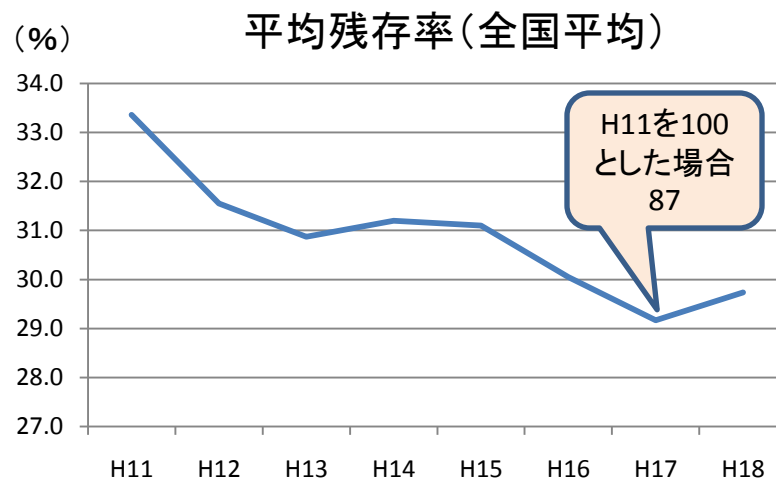
平均残存率の課題

<新規入院患者数>

- H11～H17の6年間では、平均残存率の減少ペースよりも、新規入院患者数の増加ペースが上回っている（右図）。
- 改革ビジョンの目標においては、新規入院患者数が一定との仮定を置いて、平均残存率が減少すれば、在院患者数が減少すると推計している。
- 平均残存率が減少しても、新規入院患者数が増加する場合、残存する患者数が必ずしも減少しない。



- 在院患者数の減少の状況についての評価については、在院患者数自体による方が的確ではないか。



平均残存率の課題

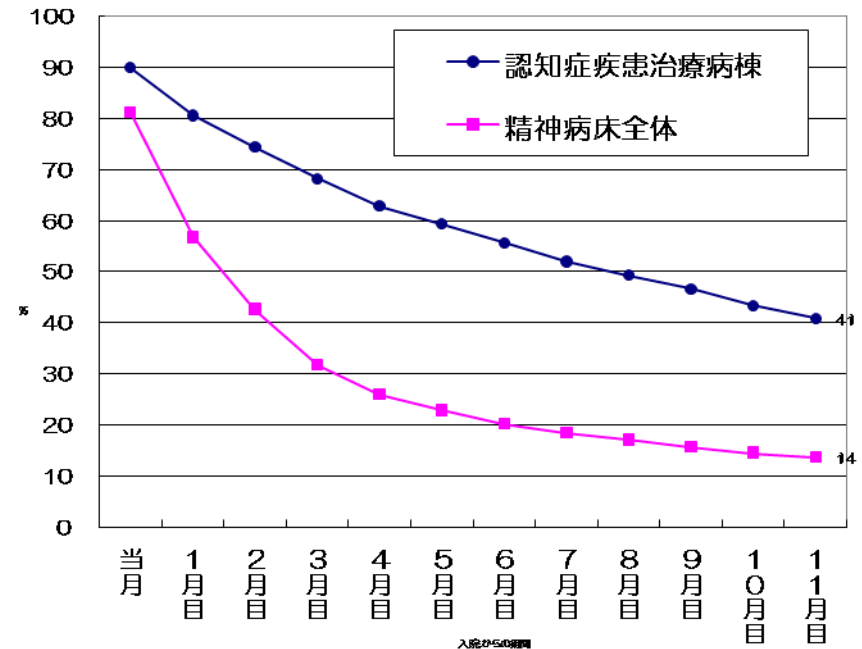
< 疾病構造による影響 >

- 平均残存率等に関する現在の目標設定は、疾患にかかわらず、精神病床に入院する全ての患者を対象としている。
- 患者の動態は、認知症とその他の疾患とでは、大きく異なっている。このため、たとえ疾患毎の残存率に変化がなくても、認知症患者数の変化によって残存率に影響が及ぶことについても考慮する必要がある。



- 目標の達成状況の評価に当たっては、疾患毎の状況を把握する必要があるのではないかと。

精神病床入院患者の残存率



平均残存率・退院率の課題

< 転院・死亡の取り扱い >

- 平均残存率、退院率の計算において、転院や死亡を含めた全ての退院が、退院として計上されている。
- 特に退院率については、転院・死亡の影響が大きく、現行の退院率が高くても、その多くを転院等が占めている地域もあり、転院・死亡以外の退院率についてはほぼ横ばいとなっている。



- 在院患者数の減少の状況を評価するためには、それ自体を目標とするか、地域移行の目標として、転院・死亡を除外した目標設定を行う等の工夫が必要ではないか。

